

【別紙】「他市町へ情報共有したい取組」市町ヒアリングシートより ※保健所（支所）が他市町へ情報共有したい取組です。

| | 市町名 | 取組内容 |
|---------------|---|---|
| 西部保健所 | 大竹市 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 高齢者や子どもの居場所づくりのために「プラモデルづくりクラブ」等の企画を行うことで、介護予防と地域づくりを一体的に行い、地域で暮らす高齢者を住民自らが支える関係づくりを進めている。 ・ 生活支援コーディネーターによって、通いの居場所一覧を作成し、地域資源情報の見える化を行っている。 |
| | 廿日市市 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 令和6年3月に各専門職が共通認識に基づき判断することができる 入退院連携ガイドラインを作成。医療従事者と介護福祉関係者の連携を推進している。 ・ 認知症の本人が意見を言える場、やりたいことができる場をつくることを目的に 認知症の本人ミーティング「すずらんの会」を立ち上げている。 ・ 地域ケア会議で抽出した地域課題を解決するために協議体等で資源開発の協議を行い、社会福祉法人いもせ倶楽部と連携した 休日夜間対応の整備や宮島や中山間地域を訪問する介護サービス事業所への交通費助成制度を開始した。 |
| 西部保健所 広島支所 | 安芸高田市 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 健康長寿課主催の介護予防事業「はつらつ健康教室」は65歳以上の誰でも参加可能な教室で、旧町単位で月6回、全体で年72回実施。運動指導士による運動指導、保健師及び管理栄養士による健康教育、骨強度、血管年齢等の測定もあり、参加者は1会場50人の参加の会場もある。80歳以上の参加者への保健師の見守りもしている。（明治安田生命との協力協定） ・ 高齢者の保健事業と介護予防の一体的実施「健康とどけ隊」事業は、老人クラブや各集会所等のサロンの要望等に応じて、保健師、管理栄養士による健康教育、体操や体組成測定など、通いの場へつながる、またリーダーの育成の取組につながるよう取り組んでいる。 |
| | 府中町 | <ul style="list-style-type: none"> ・ チームオレンジの活動に向けた BLANKETプロジェクトが当事者及び家族を含めた体制として始まっている、当事者及び家族がどう参画していくべきか、町づくりと一緒に認知症対策を行っている。 |
| | 海田町 | <ul style="list-style-type: none"> ・ ACP普及啓発推進員による出前講座を開催しており、自治会やいきいきサロン等に出向いて活動をしている。 ・ 介護職員の人材確保のため、職場体験を実施した。 |
| | 熊野町 | <ul style="list-style-type: none"> ・ シルバーリハビリ体操指導士養成事業は、シルバーリハビリ体操指導士が、実際に体操を普及する人から、リーダーまた育成者等幅広く、地域づくりの担い手となり、住民が住民を育てる仕組みができています。 ・ 防災交流センターを認知症カフェによる利用により住民の防災啓発に繋がっている。 |
| | 坂町 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 企業の協力のもと、商業施設のフードコートにおいて認知症カフェを開催し、誰もが日常的に利用する場で認知症に関する相談や傾聴する場として好評を得ている。 ・ 地域包括支援センターが地元事業等への広報活動を積極的に行い、（株）ネクスコ西日本による「高齢者の逆走運転防止教室」の開催、フィットネスクラブ「カーブス」による家庭でできる体操の指導を行っている。 ・ 9月に開設された 多機能型障害者施設「ほほえみタウン坂」では、住み慣れた地域で幼児期から大人の一貫した支援を行っている。 |
| | 安芸太田町 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 安芸太田防災アプリ「防災もりみん」による防災のDX化の推進。「防災もりみん」は災害発生時に、支援が必要な人と支援できる人を結びつけるマッチング機能を有する防災アプリ。マッチングが成立すると、支援者が要支援者へ向かい、避難先までの移動をサポートする仕組みで、役場は要支援者、支援者の位置情報をリアルタイムで把握できる。 ・ 令和3年度から「住み続けたい町づくり」の視点で住民主体の活動のモデル事業として、土居地区そして次に殿場地区をモデル地区として、定期集会や地域内のボランティア活動等を継続して取り組んでいる。 ・ 社会福祉協議会の 日常生活応援サービス「さんさんネット」事業において、ちょっとした困りごとを登録ボランティア『お互いさん』と依頼者をつなぎ対応する有償型の助け合い活動が、付き添いやゴミ分別・出し、掃除などを行い、助け合い支えあえる地域づくり、まちづくりを目指している。 |
| 北広島町 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 北広島あんしん電話事業のような緊急連絡体制の取組（ICT活用としてあんしん電話を希望者に設置。以前はすぐに消防直結のシステムであったが、ボタンを押すことの躊躇があり、現在は緊急ボタンと相談ボタンがあり、相談センター（町の委託）に繋がりがオペレーターが緊急度を判断している。また連絡のない場合1か月に1回オペレーターから安否確認連絡が入るシステムとなっている。） | |
| 西部保健所 呉支所 | 呉市 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 認知症と共に生きるまち（認知症パッケージ事業） 部分的に事業を行うのではなく、予防・早期発見・支援を一体的に行い、住民が安心して生活できるような仕組み作りを行っている。 ・ 防災力向上研修会や個別避難計画の作成支援、出前講座、避難訓練200か所以上実施する等防災に力を入れている。 |
| | 江田島市 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 介護予防事業を年間4回2会場開催している。 体操だけではなく、歯科衛生士による口腔ケア・管理栄養士による栄養指導、えたじまん体操等を実施する。 |

| | 市町名 | 取組内容 |
|---------------------------|-------|---|
| 西部 東 保健 所 | 竹原市 | <ul style="list-style-type: none"> ・市としての計画（方針）を定め、関係機関と目標の共有・連携し、地域共生社会・地域包括ケアシステムを推進するための事業を展開している。 ・新規事業として、令和6年度から、認知症の発症予防、閉じこもり予防などを目的に、作業療法士などによる脳ライフ教室（運動、知的活動、座学、栄養指導、口腔指導、料理、買い物など）を開始。教室終了後の前後比較で結果に改善が見られただけでなく、認知症の早期発見・受診勧奨、ケアマネジャーへの連携促進、サービス調整、終了後の地域役割（繋ぎ先）も見据えて支援ができています。 ・リハ職が、骨折・転倒予防のタオル体操を作成し、令和5年度から通いの場で普及啓発・体操の指導等を実施している。 |
| | 東広島市 | <ul style="list-style-type: none"> ・地域ケア会議で上がった課題に対する取組 地域ケア会議から見えてきた課題と、KDBのデータ分析から得た課題が「低栄養」と一致。「低栄養」は、「口腔機能低下症」と関連が深いことから、歯科医師会・歯科衛生士会と協力し、口腔機能低下症に係るパンフレットを作成し、歯科医院で配布し普及啓発に取り組んでいる。 ・複雑化・多様化したケースに対応するために、専門職・支援者を対象とした二次支援機関を開設した取組（支援者や専門職を対象とした権利擁護ステーションを開設） |
| | 大崎上島町 | <ul style="list-style-type: none"> ・民間事業者（水道・郵便・新聞配達員・牛乳等）が、自宅の配達物が溜まっているなどあれば、警察・役場へ相談があるなど、連携ができています。また、令和7年度以降には、クロネコヤマト（ハローライト）と提携し、見守りサービスを開始する予定である。 ・移動支援として、デマンド型おと姫バスの運行、公共交通機関（バス利用料100円）など取組を実施。 ・社会資源マップのデジタル化。 |
| 東部 保健 所 | 三原市 | <ul style="list-style-type: none"> ・オレンジフェスタで認知症デイケア利用者が販売ブースに参加したり、通所事業所利用者の作品展示を実施している。 |
| | 尾道市 | <ul style="list-style-type: none"> ・食に特化して再編集した「ねこのて手帳」の作成、配布・回覧等、市内の各協議体の活動について、ホームページへの掲載や第1層生活支援コーディネーターによる情報提供により、横展開し取組の促進を図っている。 |
| | 世羅町 | <ul style="list-style-type: none"> ・若年性認知症当事者を招いた認知症講演会の開催、フレンドリーキッズ事業による小中学生への認知症サポーター養成講座の開催等の認知症に係る普及啓発をしている。 |
| 東部 保健 所 福山 支所 | 福山市 | <ul style="list-style-type: none"> ・「ふくやまSHINKAプロジェクト」（PFSの活用）https://fukuyamashinka.com/ 前期高齢者のうちから介護予防についての知識を持ってもらい、セルフマネジメント力を高めてもらうことを目的に、前期高齢者のニーズに沿った事業を新たに立ち上げた。「これからの人生、楽しみを見つけたい！」そんな人にピッタリのプロジェクト。運動・健康・趣味など「楽しく、やってみたくなる」多彩なプログラムを市内各地で開催している。 |
| | 府中市 | <ul style="list-style-type: none"> ・対象者の元気度に応じた3種類の教室 ①運動器機能向上事業（げんき・元気教室）、②筋力回復事業（元気もりもり教室）、③地域運動サークル（元気もりもり体操運動自主グループ）を実施しており、①→②→③と地域の自主活動に繋がるようにしている。その他、主に前期高齢者を対象としたビギナー教室も実施しており（今年で3年目）、その中で担い手の発掘・育成もしている。☑ |
| | 神石高原町 | <ul style="list-style-type: none"> ・高齢者の社会参加の場に係る移動支援事業 |
| 北部 保健 所 | 三次市 | <ul style="list-style-type: none"> ・高齢者の保健事業と介護予防の一体的実施としてオーラルフレイル対策を中心に行っている。 令和5年度は、三次市の健康推進課、高齢者福祉課、地域包括支援センター（社協）、市民課保険年金係等の庁内関係課や三次市歯科医師会、三次地区医師会等と情報共有しながら実施。 |
| | 庄原市 | <ul style="list-style-type: none"> ・住民の夜間時間帯における移動手段の確保と経済活動の活性化を図る取組として、庄原商工会議所や備北交通などで構成する協議会を中心に、令和6年度、夜間時間帯にデマンドバスを運行する実証実験（国土交通省補助事業）が行われており、市も共催している。 |
| 当 課 | 広島市 | <ul style="list-style-type: none"> 短期集中通所口腔ケアサービスの利用者増加の取組 ・歯科医師会モデル事業（歯科医師から対象となる方を見つけ、利用を促している） サービス導入の流れ：【通常】地域包括支援センター → 歯科医院へ依頼 【取組】 歯科医院 → 地域包括支援センターへ情報提供 |